

<p>タウンミーティングの名称</p> <p>生物多様性ちば県戦略タウンミーティング</p>	<p>参加人数</p> <p>37人</p>
<p>主催グループ名</p> <p>千葉県の生物多様性を考える会</p>	<p>代表者名</p> <p>竹中真里子</p>
<p>実行委員名</p> <p>竹中 真里子</p> <p>松清 智洋</p>	
<p>開催日時</p> <p>2006年12月12日15時30分～17時30分</p>	
<p>開催場所</p> <p>柏市民活動センター 会議室</p>	
<p>プログラムの概要</p> <p>15:30～15:40 千葉県から計画策定の経緯・スケジュールについて説明</p> <p>15:40～16:00 千葉県立中央博物館副館長中村俊彦さんのお話 生物多様性国家戦略の概要とその成果と課題について 千葉県の現状について</p> <p>16:00～17:20 意見交換 テーマ ①種・生態系の保全 ②絶滅の防止と回復 ③持続可能な利用 ④その他</p> <p>17:20～17:30 主催者からまとめとお礼</p>	
<p>論点整理</p>	
<p>1. 解決が必要な問題</p> <p>①環境教育のありかた</p> <p>②生物多様性を担保する農業への転換</p> <p>③遺伝子組み換え作物による遺伝子汚染の拡大への対応</p> <p>④都市化、開発と生物多様性との共存</p> <p>⑤NPOと行政の協働のありかた</p> <p>⑥実効性のある戦略とするための他部署との十分な連携</p>	

## 2. 現在:実践されている取り組み(効果と課題)

- ・ 現在里山づくりを自治会をまきこんで行っている。里山を保全するためには、子どもたちが「自然とのかかわりの知恵」を受け継いでいくことが大切なので、実体験をすることが重要。

## 3. 今後の取り組みについての提案(想定される効果と課題)

### ①環境教育のありかた

- ・ 千葉県豊かな自然を考える契機となるようなパンフレット等の作成し、その保全を考える契機とする。
- ・ 環境学習は、小・中学校のみではなく、高校生・親の世代にも必要。
- ・ 首都圏の学校を対象として自然体験の受入れをしてみてもどうか。環境学習と保全を一体化するとよい。
- ・ 学校の教科に「千葉県の生物多様性」を入れて欲しい。生物を必修とするべき。

### ②生物多様性を担保する農業への転換について

- ・ 生物多様性に配慮した農業への改革が必要。
- ・ 千葉県でも離農問題があるが、人材育成・後継者の育成が必要。リタイアされた方などをとりこんでいけないか。

## 4. :行政、学校、専門家、県民、企業等への意見(期待する役割など)

### ③遺伝子組み換えについて

- ・ 遺伝子組み換えナタネの株が千葉でも発見されている。在来種との交雑、食の安全ともつながる大切な問題。現在検討されている「食品安全条例」による「栽培指針」との整合性を図って欲しい。

### ④都市化、開発と生物多様性との共存

- ・ 開発の前に、県の環境会議でしっかり影響を見極めていただきたい。つくばExpressの開発に疑問を感じている。

### ⑤NPOと行政の協働のありかた

- ・ 市民が意見を言える場が欲しい
- ・ NPO等の活用の仕組みが必要

### ⑥実効性のある戦略とするための他部署との十分な連携

- ・ 戦略策定の際には、他部署と十分連携して欲しい。横の連携ができるような体制を作ることが必要。
- ・ 実行性のあるものにして欲しい。計画を作ってもヒト・カネ・モノが付かないと、動かない。県庁職員からまず意識改革が必要。
- ・ 特区を作って、県債を発行し環境を保全するのはどうか。

#### 5. 自由記述

- ・ 計画から開催までの時間が短すぎて準備不足のため、当日の発表等の企画ができなかった。
- ・ 一週間の呼び掛けでこの人数が集ってくれたということは、現在・将来共に取り組める熱心な仲間が地域にたくさん居て、このような意見交換の場が必要だということが確認できた。
- ・ 実効性のある戦略にしていきたいということが繰り返し出ていた。

<p>タウンミーティングの名称 外房地区タウンミーティング 「外房における生物多様性保全と地域の生活とのかかわり」</p>	<p>参加人数 50名</p>
<p>主催グループ名 外房地区タウンミーティング実行委員会</p>	<p>代表者名 手塚 幸夫</p>
<p>実行委員名 石井喜久子・市川幸治・伊藤幹雄・大藪健・鈴木藤蔵・清野正義・滝口和弘・土屋豊明・手塚幸夫・戸張七重・中村松洋・平岡誠一郎・堀内正範・宮内陽子</p>	
<p>開催日時 2006年12月16日 17時00分 ～ 20時00分</p>	
<p>開催場所 いすみ市役所 会議室</p>	
<p>プログラムの概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会式 (実行委員長挨拶、いすみ市長挨拶、県側から概要説明)</li> <li>2. 現地報告 (①外房の自然と生物多様性について、②南総の谷津田の現状について、③いすみの漁業と海の生物多様性について、④外房地域の環境学習と自然体験について、⑤自然保護・環境学習型の観光事業を目指して、⑥南九十九里自然観察園構想について)</li> <li>3. 意見交換とまとめ</li> </ol>	
<p>論点整理</p>	
<p>1.解決が必要な問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 谷津田の重要性が認識されてきているが、その一方で、県内の谷津田では耕作放棄が進み、本来の谷津田はほとんど無くなってしまった。細々と谷津田の耕作を続けている農業者への支援が、さらには、耕作放棄された所に小貯水池を作るなどの取り組みが必要である。</li> <li>② 海岸域に溜まるゴミ、山林・河川域捨てられるゴミの量が非常に多い。</li> <li>③ 一次産業に元気を与えるような施策がない。</li> <li>④ 一方で、無農薬・有機栽培など努力している農家もいる。このような農家への支援、新しい取り組みをしている農家への支援などが望まれる。</li> <li>⑤ 里山・里地・里海が水田や河川を介してつながっている。水が流れ込んで海の自然環境に影響を及ぼすことへの理解・認識が不足している。</li> </ol>	
<p>2.現在:実践されている取り組み(効果と課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① スナメリウォッチングクルーズを通して、海の自然、海から見える陸地の景観や自然を観察・学習する取り組みを展開している。地域からの参加者・都市部からの参加者双方に好評である。この取り組みをまちおこしにつなげることが今後の課題。</li> </ol>	

- ② 稲作体験を通して、谷津・里地・里山の自然に関わる取り組みを実施している。参加している子ども達に加え大人たちも、人と自然、一次産業と自然からの恵みの1つの側面を感じることができた。
- ③ 丘陵地・里地・砂浜と磯・里海などで自然観察会や体験会を実施している。まだ比較的状态のよい自然が残っているが、質的に後退したり荒れているところも目立ち始めている。地域の自然の全体像を把握し、積極的に保全していく地区を選んでいく作業などが必要と思われる。
- ④ 海岸のゴミ清掃、川の生物水質調査などを実施し、水域の保全を提案している。さらに、海岸域を中心とした、自然観察園構想を提案している。構想を具体化していくことが今後の課題。

### 3.今後の取り組みについての提案(想定される効果と課題)

- ① 自然保護・環境学習型のクルーズなどのように、自然だけではなく、一次産業に関わる現場、さらに生産や生活を見る新しい観光を模索していきたい。一次産業が元気になる一助となることが期待される。自分達が住む地域の自然の価値を再認識するとともに積極的に保護し、さらに地域の自然に自信を持つことができるようになることが大切。
- ② 里地・里山の自然とそこに見られる生物多様性は、人と自然との間の共生の歴史的な積み重ねの上に成り立っていることを理解できるような農業を中心とした体験・学習の場を広げたい。
- ③ 海岸清掃や森の育成などを、官民の協同の取り組みとして定着させ、ゴミの減量化、水質浄化への努力を具体化させていきたい。地域の中でのゴミ問題に関する理解・共通認識が必要。

### 4.行政、学校、専門家、県民、企業等への意見(期待する役割など)

- ① 漁業の活性化のために、海の資源・自然を保護・育成する取り組みを考えている漁業者も少なくない。このような漁業者・漁協をしっかりと支えてほしい。
- ② 谷津田の再生に取り組み、谷津田とそれを取り囲む森からの生産物のブランド化について研究し・支援してもらいたい。
- ③ 外房地域における水田の役割の大きさを認識・理解できるような学び・体験をし、人と自然の共生的な関係について体感できる学習が必要である。

### 5.自由記述

- ① 先ず第一に、元気で健康な一次産業の育成が必要である。
- ② 自然と共存する一次産業のあり方を考え、意欲的に取り組んでいる農業者・漁業者に、対しては、今ある縛り・規制を取り除くようにしてほしい。水産・農林以外の県の部・課(自然保護課など)との連携して進めることも必要であろう。

タウンミーティングの名称 環境学習タウンミーティング松戸 千葉県環境基本計画・環境学習基本方針の見直しに対する提案	参加人数 52名
主催グループ名 環境タウンミーティング・松戸 呼びかけ人中岡・土田	代表者名 中岡
実行委員名(含む当日スタッフ) 塩崎・武田・中川・花輪・高木・田岡・小林・間・山の上・川島(千葉大1年)・小林(松戸4中2年)	
開催日時 2006年12月17日 11時00分～13時10分	
開催場所 松戸市民会館202号室	
プログラムの概要 司会土田)・タイムキーパー(塩崎)・記録(武田・川島)まとめ中岡 11時・開始の言葉・土田確認・昼食時間をまたぐが時間延長了解の確認・発言が出来無かったり、言い足りないかたはFAXにて送付 主旨説明実行委員長・中岡 資料・資料環境基本計画のあらまし「ちば新時代の環境づくり」 千葉県環境学習基本方針の見直し 「仮称生物多様性ちば県戦略」策定の基本的考え方 ちば環境再生計画の見直し・ちば環境基金活動ニュースV01.5と6 ちば環境再生県民の会広報紙no15 その他 11時08～20・千葉県環境基本方針の見直し説明・担当(生駒) 11時20～30・千葉県環境学習基本方針の見直し説明・担当(柴崎) 会場からの発言に際し ・松戸市環境計画課・填島氏より学校での環境学習などの事例を5分で発表 時間の制限があるので、全員の自己紹介は無し、意見など発言に重点をおいて、発言者は「氏名、地域」を述べてから意見を開始することを確認 13時10分終了書記より確認05分	
論点整理	
* 環境基本方針ならびに環境再生計画・生物多様性も含まれる意見・要望が多く寄せられた。 この会議に先立ち水調べの報告会、本日の議題の学習などを重ねたので、文書による意見も多く出された。その多くはすでに長年活動している市民が多く現場からの声なので県には別に添付して提出します。アンケート147この中からまとめました。	
1. 解決に必要な問題・2. 3. 4も含む	
環境基本計画について ・国のように新たな組織を作ると県民がさらに遠退く、費用もかかるので、長期の策定をしても短く見直しをして、その間は変更無く、県民の力を借りて策定を浸透させて、県民が動くまでの時間を考える。(自治会・市民組織・企業の力) ・自治会活用のため、行政・県・市から自治会長に環境に対する主旨を説明する。 コツコツダイエット出前講座をやったが、環境省の資料を使った。県独自の資料作成を望みます。 ・県の文章には血が通っていない。単なる仕事とこなしている。伝へ方も官僚的悪い。	

## 県の知的財産の活用・(委員会の委員など)

例・平成8年 県知事が委託している、県環境学習アドバイザーは10年間に多くの県民と学習会をしてきた。

アドバイザーは分野ごとに3人。

- ・生徒は小学校から成人までそれぞれが手づくりの教材づくりをしている。授業のツールのアンケートをとり、まとめる。アドバイザー会議を毎年行い具体的に話し合う場をつくる。
- ・市町村で地域ごとにエココミュニティーを形成し、活動できる機会づくりをしてほしい。環境カウンセラー・アドバイザーの活動機会づくりが必要。
- ・環境学習基本方針について、平成4年度と平成18年度を比較してNPO市民団体の活動状況が大きく変わっている。平成4年度作成は県が指導していくトーンで全文章が記載されているが、見直しでは支援体制、拠点作り、情報収集管理などを強化するトーンで文章を作成するとよい。

## 学校と教育のこと

- ・環境学習を学校の教育の中に位置づけるべき。

私たち日本人が今後も快適で便利な生活を送る以上、利便性が環境破壊であることを大きな環境問題を引き起こしていることを、すべてのこどもに教育をする必要がある。

突然変更される指導要領で良い学びが根ざさない内に消えているのが実状。小学校では担任、中高では特別教科の先生の受け止め方もばらばらでは無理をして環境学習に取り組む先生がいなくなる懸念がある。これらのことを市民が長年活動してきたが人的及び資金にも大きな負担となり限界にきている。環境学習は広く伝え人に理解して生活の中で実行していき始めて表れることなので、必要性の重要度が低く見られ、気付いた時には取り返しがつかない問題となっていることから。

- ・拠点づくりについて、松戸の東葛支所などに県民の利用できる情報センターなど設置出来無いか、また運営をNPO、市民団体に振ることも考えて欲しい。
- ・柏にある県民プラザの中に環境学習実験室があり実験道具がさまざまに有ったが、その利用について環境アドバイザーなどに責任をもたせ、県民広く貸しだして欲しい。

## 生物多様性について(人も重要な生物として大切に)

- ・自然環境の体系的保全の中に遺伝子組み換え生物(作物)についてを取り入れてほしい。県の指針づくり(農林)では、県民に開かれた形で意見を聴いてほしい。」という言葉を生活に即した食べ物・飲み水にしたほうが分かりやすい。
- ・三番瀬の自然保護。ラムサール条約に参加することを考えて欲しい、三番瀬は是非守りたい。
- ・千葉県には「千産千消」という考えで進めているが、東京湾で取れる魚・アサリなどが安心して食べられるように、汚染している河川・沼をきれいにする。
- ・家庭の中にある、危険化学物質の指定のある商品が多いことに気付いた。身近な生活のなかの危険物質について知らせて欲しい。こどもたちに副読本などで教えて欲しい特に中学・高校生に必要。
- ・柏市に住んでいます、ディーゼル車が茨城や他県からの通行が多く、苦しくてまともな生活が出来無いので厳しくして。
- ・柏市増尾地区産廃業者が夜5時以降も煙が高く上がるほど燃やして、日曜日でも作業をしている昼は煙が少ない、県の管轄なので監督の強かを。
- ・遺伝子組み換え作物が交雑すれば、種の保全や生物多様性に関して外来生物よりもっと甚大な被害をもたらします。交雑を防止する具体的な措置を是非千葉県は構築をと考えます。この点の具体的に表示。

- ・ 遺伝子組み換えについてのタウンミーティングの開催を要望。

北海道条例に準拠した指針づくりを目指してほしい（交雑防止措置・混入防止措置）

#### 環境再生について

- ・ 環境再生のモデル事業について、県はなのはな・ヒマワリエコ現場のお手伝いをしているが検証と他の現状を知りたい。事業の取り組みをしている参加団体の交流、栽培、作付けなどの学習会開催のお願い（何時も市の動きはよくわかるが県の動きが見えない）
- ・ 廃食油からリサイクルせっけんをつくり、資源循環の策定、環境再生の一環の輪にはいる活動で廃食油から BDF 燃料も製造している。合成洗剤の成分の合成界面活性剤は PRTR では指定危険物にも入る物質でその使用量も正しく知る人が少ない。県庁、学校などでのせっけん使用を進め、教育委員会にも指示を要望します。
- ・ 基金への募金拡大と環境活動への主体的参画は連動すると推測している。因って環境再生の為の「みどりの県民債」発行計画はいかが？現状の目標数値の決め方も問題だし、達成状況も芳しくない。何より人口に膺炙していない。ならば 600 万県民の 1 割目標に 1 口=5 千円でも 30 億となるが寄付と違う効果は各地の自治体で実証済みだ。何より基金事業への参加意識が培養される。引受銀行の設定や利率運用など検討に値いませんか。この資金を活用し環境危機への告知や基金募集の PRCM を製作し、県内の映画館上映前や文化施設等の開催前に流す効果を期待したい。

#### 自由記述

- ・ 事業の見直し、情報開示をして、市民に手助けを頼む、遅くなり時間が掛ればそれだけ費用も掛る。
- ・ 手賀沼の導水量の増加を望みます。手賀沼は導水事業できれいな状態になりましたが、流入する大津川はまだ汚れているので市民に排水地域の説明などをする事が先と思う。
- ・ 水道局からの新聞が配布されるが新聞を取らない家庭もあるので、あなたはどこの水を飲んでいますか？排水はどこに流れていきますかなど啓発活動に力をいれて欲しい。浄化対策は環境に関心の薄い人こそ必要と思う。
- ・ 自治体は HP などを利用し、今の活動を広く市民に分り易く知らせて（広報）欲しい。
- ・ 手賀排水、東京湾排水の下水道整備と整備された地域での個人の家庭・アパートの支管工事が進まないところの強化を望みます。（担当は市ですが）
- ・ 手賀沼が 1 級河川であることを知りました。知らない人が多いので大切も含めて排水するエリアには特に知らせて欲しい
- ・ 柏市にある北千葉の排水機場など千葉県として、見学者を増やす工夫をし、県民に水のことを学ばせる良い場づくりになる。
- ・ 噴水など無駄な維持費の掛る建造物は以後要らないので、その費用を他に回せばよい。
- ・ 行政（自治体）職員の責任、役割、自覚欠如在任中のみのも事無かれ主義が今の環境行政の遅れを勧めた。
- ・ タウンミーティングの開催ありがとうございます。わたしたち市民の声を聞いてもらえる場をつくりありがとうございました。
- ・ 県は横の連絡をとり県民に開示して欲しい。
- ・ 市民一人一人の自覚も必要、こんな会議を県との対話の車座での開催を要望。（どたばたとしてタウンミーティングをすることも無いようになる。）
- ・ 川の水調べをしているが、ごみの投げ捨てが多いので、大津川流域の橋のそばに、何を捨てても公害、厳しく行政処分をして欲しい。ごみ箱は入らない。
- ・ 流山市みずぎの街の雑排水の一部を運河に流すのをやめてほしい。
- ・ 大堀川の鮭の遡上の真実を知りたい、実状を知りさらに浄化活動をこどもも巻き込んでしていきたい。



<p>タウンミーティングの名称</p> <p>わくわくする里づくりの実践 ～地域の声よ、想いよ、とどけ！～</p>	<p>参加人数</p> <p>21人</p>
<p>主催グループ名</p> <p>安房地域実行委員会・千葉自然学校</p>	<p>代表者名</p> <p>土居 元</p>
<p>実行委員名、協力団体名</p> <p>委員：三瓶雅延、石田三示、遠藤 勇、竹内聖一、黒木 誠、土居 元</p> <p>協力：沖ノ島サンゴを見守る会、大山千枚田保存会、Live Stock、安馬谷里山研究会、ほんた 里山の会、たてやま海辺の鑑定団、水島水産、江見を元気にする会、環境パートナーシップちば、 千葉まちづくりサポートセンター、南房総市、館山市、鴨川市、鋸南町、千葉県</p>	
<p>開催日時</p> <p>2006年 12月17日 9時30分 ～16時20分</p>	
<p>開催場所</p> <p>南房総市平久里下大沢 古民家「ろくすげ」とその敷地内</p>	
<p>プログラムの概要</p> <p>※このタウンミーティングは、農村景観・自然環境保全パイロット事業との同時開催とした</p> <p>9:30 集合</p> <p>10:00 竹を楽しむワークショップ</p> <p>里山荒廃につながっている放置された手の入っていない竹林を整備し、その結果出てきた竹を楽しみながら使っていくことで里作りを進めていくためのひとつの方法にしようとしてワークショップを計画。竹のツリー、ランプシェードなどを作成し、飾った。</p> <p>11:10 雨のため早あがり、周りの散策、蔵や長屋門の探検など自由行動</p> <p>12:15 昼食・休憩</p> <p>13:40 生物多様性タウンミーティング</p> <p>主催側から今回の趣旨説明と県側から環境基本計画・生物多様性千葉県戦略の概略説明</p> <p>14:10 ※全体を3グループに分け、マインドマップという手法を使って進めた</p> <p>農村景観整備・自然環境保全による里作りの実践を通じた活動から、参加者が共通にイメージしやすいキーワード「ダッシュ村」を提示。そこから様々な意見を出し合い、私たちが何を考え、実際に行動するまでどうして行くのかを膨らませていった。その根底にある人と自然との織り成す様々な状況（3グループそれぞれで違った）が、つまるところ生物多様性、環境基本計画の中身になるものだとしてミーティングを終えた。</p> <p>15:40 各グループの発表</p> <p>16:00 参加者からのメッセージ</p>	

最後に、言い足りなかったこと、アピールしたいこと、宣伝したいことを参加者に話してもらった。

16:20 記念撮影後、解散

### 論点整理

#### 1. 解決が必要な問題→主な意見の流れ

- ・里山を生き生きさせるためには一産業として生活できなければならない一年収500万あれば自然と人は集まる一農業は勇氣栽培や直売所など個人の工夫で消費者をつかんでいる一同じ一次産業でも漁業に関しては個人の努力は通じにくい一行政や地域の取り組みが必要
- ・水をきれいにする一生活雑排水や農薬が原因一水は川を経て海へとつながる一昔は微生物が分解したが、今は分解不能なものや絶対量が増えている一里山には良い微生物(土着菌)があり、その活用が望まれる一その1例としてEM菌などの使用もある

※微生物は生物の源。その中には良いものも悪いものもある。全てはそのバランスから成り立っている。

- ・里山・棚田一草ぼうぼうの放棄地一担い手の高齢化一景観、癒しの点からも保全を一癒しを感じない、実態を知らない一親子で体験を、そして調査も必要一体験と調査の連携をとって進めていく一連携によるネットワーク作りが必要

※安房は海も大きな資源。里山・棚田から進んできたこの話しを、海に置き換えて考えていく事も同じくらい大切なことである。

- ・田一猪が多い一人手が入らない一暮らしがなくなっている一この悪循環を断つ仕組みが必要一大山千枚田など安房の先進・先行事例に学ぶ一地元で足りない部分は都会から呼び一団塊ジュニアが多く安房は訪れる一半定住につなげる(この世代は都会にも生活の拠点が必要)
- ・川一魚がいなくなった一三面護岸一源流部での産業廃棄物処理場が心配

#### 2. 現在実践されている取り組み(効果と課題)

- ・会場のろくすけを中心とした地域一体の活動(今年度から始めた農村景観・自然環境保全)  
効果：地域の方々の関心が集まり、目を向けてきている  
課題：持続させていくこと

#### 3. 今後の取り組みについての提案(想定される効果と課題)

- ・棚田・里山・里海といった安房地域の特徴(観光も大きなテーマになる)を活かした戦略が必要。そのためにもソーシャルキャピタル(地域の豊かさ)を地域の人は伝え、周りの人は知ることを積極的にしていくべきである。
- ・産業として生活できる仕組みが必要。都市が価格を決めていくようなものはダメ。地域から決めていけるような仕組みを作る。(フェアトレードからコミュニティートレードへ)
- ・都会の人に来てもらう仕組みをつくる。楽しみながら体験できるものを。
- ・持続可能なものにもっていくべき、しかし、当の地域の人が楽しんで元気でないと続かない。その仕組みも必要。

- ・問題・課題となっている原因や地域で起こっている事、その現状など、周りの人、地域の方の双方に良く理解されていない。情報をきちっと伝えることそして得ることを当たり前にする。
- ・地域の人たちが自分たちで解決できる（地域の問題を地域で解決していく）仕組み、そして地域の問題を政策化する。そういった官の発想を超えていく仕組みが必要。

#### 4.行政、学校、専門家、県民、企業等への意見(期待する役割など)

- ・このミーティングにて話されたことは、安房地域の方々全てではないのですが、確実に言えることは、地域の生の声です。（私たち安房地域に限らず他19箇所全てに言えます）ですから、確実に基本計画の中に反映されるように今後の議論を進めてほしいです。そして、その基本計画決定までの流れを隠さずに、透明性をもって確実に私たちに伝える機会を作ってください。
- ・何かやろうと動き出しても、行政からの規制や制約そして、最後には圧力がかかる。このような体制・体質を変えていただかない限り、全県を挙げての取り組みは出来ないのではないか。

#### 5.自由記述

- ・丸山川にダムが出来て以来、川の汚れがひどくなった。その先の海の汚れは、川の汚れが原因となっている。
- ・安房地域は里山ばかりでなく、里海も特徴であり、里山も里海も同じレベル・目線での議論が必要。